

自民・公明・維新の会 合意

II 現役世代の保険料負担を含む国民負担の軽減

社会保障改革による国民負担の軽減を実現するため、主要な政策決定が可能なレベルの代表者によって構成される3党の協議体を設置する。

以下の点を含む、現役世代の増加する保険料負担を含む国民負担を軽減するための具体策について、令和7年末までの予算編成過程（診療報酬改定を含む）で論点の十分な検討を行い、早期に実現が可能なものについて、令和8年度以降の予算編成に移す。

- ・ OTC類似薬の保険給付のあり方の見直し
- ・ 現役世代に負担が偏りがちな構造の見直しによる応能負担の徹底
- ・ 医療DXを通じた効率的で質の高い医療の実現
- ・ 医療介護産業の成長産業化

上記の検討に当たっては、

- ・ 政府与党として、令和5年12月22日に「全世代型社会保障構築を目指す改革の道筋（改革工程）」等を決定し、2023年度から2028年度にかけて、歳出改革等によって実質的な社会保険負担軽減の効果を1.0兆円程度生じさせるとされていること
- ・ 公明党として、令和6年9月20日に「公明党2040ビジョン（中間とりまとめ）」を公表し、生活習慣病等の予防・重症化予防、健康づくりの推進、がん検診等の充実による早期発見・早期治療、多剤重複投薬対策や重複検査対策などを進めることで医療費適正化の効果も得られるとされていること
- ・ 日本維新の会として、令和7年2月20日に「社会保険料を下げる改革案（たたき台）」を公表し、国民医療費の総額を、年間で最低4兆円削減することによって、現役世代一人当たりの社会保険料負担を年間6万円引き下げるとされていることを念頭に置く。

OTC 類似薬の保険給付の
あり方の見直し

国民医療費の総額を、
年間で最低4兆円削減する

2025年3月3日 衆議院予算委員会 配付資料 ① 日本共産党 辰巳孝太郎

出典 「自由民主党、公明党、日本維新の会 合意」（2025年2月25日）より辰巳孝太郎事務所作成（パネル）

OTC医薬品と 医療用医薬品薬価の自己負担額との比較

有効成分	単位	価格（円）	
		OTC医薬品 メーカー希望小売価格(税込)	自己負担額
アセトアミノフェン（解熱鎮痛薬）	300mg1錠当たり	88.9	1.8 ▶ 49倍
ファモチジン（胃酸分泌抑制薬）	10mg1錠当たり	179.7	3.0 ▶ 60倍
フェキソフェナジン（花粉症薬）	60mg1錠当たり	103.2	3.0 ▶ 34倍
ロキソプロフェンナトリウム（湿布薬）	50mg1枚当たり	138.3	3.6 ▶ 38倍
葛根湯（漢方薬）	1錠当たり	27.1	1.2 ▶ 23倍